

JICA ボランティア 千葉

SV ニュース 第15号

平成二十三年春公開講演会と

平成二十三年度通常総会を開催

JICA地球ひろば 副所長 山本愛一郎氏による「移り行く世界の開発援助と激震の日本の行方は」の講演が開催されました。



講演中の山本愛一郎氏

公開講演会を六月十一日午後三時三十分より千葉市国際交流プラザで開催しました。午後には天候が回復し、約四十名が聴講しました。時宜を得た、示唆に富んだ講演で、一同感銘を受けました。
山本愛一郎氏のご講演内容は第二面に掲載してありますのでご覧ください。
公開講演会に先立ち、当会平成二十三年度通常総会が開催されました。会員出席者三

十一名、委任状提出者三十二名で盛会でした。

司会の後藤副会長より開会宣言と来賓紹介が行われ、会長挨拶に引き続き、JICA地球ひろば所長 貝原 孝雄氏のメッセージ披露、千葉県国際課副主幹 小野 文弘氏、JOCV千葉OB会副会長 高庄卓也氏、千葉県海外協力隊を育てる会会長 田中 保蔵氏よりご挨拶を頂きました。



「平成二十三年度総会を無事開催でき、うれしく思っている。当会は今後も長

期的展望を持ち質の高いボランティア活動の核と成るべく努力していきたい」



「姉妹州米ウイスコンシン州と、デュッセルドルフ市から、震災支援を受けた。現在ま

平成二十三年度定例会日程
日時 十二月三日(土) 十三時～十六時
引き続き懇親会を予定
会場 千葉市国際交流プラザ

での県との国際交流のお蔭である。今後も国際交流・協力を継続するので、協力をお願いしたい」



高庄卓也氏

「青年海外協力隊、シニア海外ボランティア事業の発展のために、共に行動していきたい」



田中保蔵氏

「育てる会」はJICA海外ボランティア活動支援を目的に協力をしたい」



続いて議事に入り、平成二十二年活動報告、同会計報告、会計監査報告、平成二十三年度活動計画、同

予算案、同役員選出が付議され、それぞれ原案どおり可決されました。
終了後「美弥和」にて懇親会を行ない旧交を温めました。
総会の詳細は第三面をご参照下さい。

本県は、JICA草の根技術協力事業として、二〇〇七年度から「ハノイ市水環境改善理解促進事業」を実施しております。
これは、日本のODAで作られた下水処理場の維持管理や、水環境改善に向けた市民への啓発について、本県が培ったノウハウをカウンターパートであるハノイ下水排水公社(HSDC)へ移転するもので、年二回の専門家派遣(各五～七日間)と、千葉県での研修員受入(十七日間)を行っております。

ベトナム国ハノイ市での水環境保護啓発活動に参加して

千葉県 総合企画部 国際課



使節団員も「チーバくん」のボロシャツで清掃に参加

行事がJICAプロジェクトによる千葉県との協力により実施される旨の報告があり、我々使節団も参加者代表として挨拶しました。

が、雨合羽、ヘルメット、手袋を着用し、ゴミを拾いました。我々も汗だくになりながら、住民の方々と一緒にゴミ拾いをしました。言葉は違えど、「湖をきれいにしたい」という気持ちは皆同じで、みるみるうちにゴミ運搬用の台車が満杯になつていきました。

この活動に参加し、「森と水の文明城市」を目指すハノイの市民が湖をとても大切にしていることを痛感しました。こうした地道な活動が今後も継続されることを願つてやみません。



千葉県使節団の挨拶

当日、朝八時からチュック・バツク・バツク下水処理場で行われた開会式では、この



綺麗になった湖を背景に記念写真お疲れ様でした

「変わり行く世界の開発援助」激震の日本の行方は」

山本 愛一郎

二十一世紀は、二十世紀とはいろいろな意味で違った時代に入っている、最大の違いは、グローバル化現象である。ヒト、モノ、カネが瞬時に国境を越えて移動する二十世紀の世界では、開発援助も豊かな国から貧しい国への一方的な支援ではなく、グローバル化した世界における各国のサバイバルの手段になっている。

アメリカのオバマ大統領は、"Don't try to fix twenty-first century problems with twenty century tools." (二十一世紀の問題を二十世紀の道具で解決しようとしても駄目だ)と言っている。

国連も世界銀行もODAも二十世紀の産物だ。二十世紀のODAは、豊かな先進国の政府が貧しい途上国の開発を援助する重要な手段であったが、最近では、ビルゲイツ財団などの巨大な民間団体や中国、ブラジル、インドなどの新興国も開発援助に乗り出しており、開発に占めるODAの位置づけが小さくなりつつある。

アメリカは、9・11以降、ODAをアメリカの安全保障の一環として位置づけ、その予算を倍増させた。テロは貧しい国に巣食うので、援助によって貧困をなくし、よってテロを撲滅するというブッシュ前大統領の強い信念を反映したものだ。

イギリスは、かつての大英帝国のアフリカやアジアでの植民地支配への贖罪もあり、国民の貧困削減への関心が高いことから、ODAの目的を貧困削減に特化し、ODA予算を三倍増させた。(日英米ODA比較表参照…四面四、五段に掲載)

日本は、十年來の経済不況と財政赤字のため、ODA予算は減り続け、世界一のODA大国であった一九九〇年代から比べると三十割も激減し、二〇一〇年ODA世界ランキングでは、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランスに抜かれ、世界五位に転落した。では、これから日本のODAは、どうあるべきなのだろうか。

アメリカとイギリスを足して二で割っても答えは出てこない。三月十一日東北地方に未曾有の大地震と津波が襲った。

この大災害は、福島原発事故とあいまって日本の経済、社会に大きな負のインパクトをもたらした。

しかし、その中で日本人が勇気付けられたことがあった。それは、世界百四十二カ国から義援金、支援金、そして励ましのメッセージだ。



パキスタン北部地震(二〇〇五年一月)で崩壊した校舎を日本が支援し、再建したカシミール地方の女子高校の生徒たち。日本との連帯に気持ちを表した横断幕を掲げた

国連統計によれば、東北大地震で日本が世界の官民から受けた援助総額は約七百六十一億円で、これはスーダンが一年に受けるODA総額よりはるかに大きく、今や日本は世界一の被援助国になっている。

JICAは、世界九十カ国に事務所を持っているが、最近異変が起きている。これまでJICAの事務所は、援助を供与する窓口だったが、今では震災への援助を受ける窓口にもなっている。

また三千を超えるメッセージもJICAに届いている。日本がこれまでODAなどで支援してきた国の政府や人々からの生の声だ。彼らのメッセージに共通するのは、「日本人は、我々が苦しい時に助けてくれた。だから今は恩返ししたい」であった。彼らの印象に残ったのは、日本政府でもなく、ODAでもなく、日本人なのだ。

二十一世紀の日本が進む国際協力の道は、ODAプラス人と人との結びつきをベースとした国際協力だ。

このためには、市民パワーが必要だ。JICAの市民参加メニューである青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、草の根技術協力などもどんどん活用して、これからの日本のODAは、市民参加による顔の見える協力を志向することが重要だ。

JICA理事長の緒方貞子は提言する。「国際協力を日本の文化に」

平成二十三年度新役員紹介

六月十一日に開催された総会で平成二十三年度役員として次の諸氏が選出されました。

- 会長 山本 茂穂 (千葉市)
 - 副会長 後藤 優 (千葉市)
 - 副会長 及川 淳一 (船橋市)
 - 事務局長 津田 正臣 (千葉市)
 - 幹事 横田 勝徳 (千葉市)
 - 幹事 酒井 國彦 (千葉市)
 - 幹事 羽田 亨 (新任) (柏市)
 - 幹事 大西 輝明 (新任) (浦安市)
 - 会計監査 黒田 昭太郎 (柏市)
 - 顧問 品川 洋之助 (鎌ヶ谷市)
 - 顧問 上田 義晴 (千葉市)
 - 退任 大久保 邦衛
- 今年三月に二十二年度第四次隊SVとしてフィジーに赴任されました。ご活躍を祈ります。

平成二十三年通常総会を開催 新役員体制の発足

六月十一日午後一時より千葉市国際交流プラザにて通常総会が開催されました。

議長には品川会長、書記として羽田 亨、大西 輝明 両氏を議長団に選出後、次の六議案が上程されて、それぞれが原案どおり可決されました。

「平成二十二年活動報告」

「同 会計報告」

「同 会計監査報告」

「平成二十二年活動計画案」

「同 予算案」

「同 役員選出」

平成二十三年役員選出では、品川会長が勇退し、山本副会長が新会長となり、また

新役員として羽田 亨氏、大西 輝明氏を迎えることが承認されました。

続いて報告事項に移り、「広報およびホームページ」を酒井幹事と白鳥ウエブマスタワーが、「国際理解（開発）教育」を横田幹事が現状と今後の方針を報告しました。

新役員となった羽田 亨氏、大西 輝明氏の自己紹介がありました。

議長団の解任後、品川前会長、山本副会長が挨拶に立ちました。引き続き津田事務局長より新会員の 大西 輝明氏、坂出

直哉氏、中山 明子氏、樋口 徹生氏、松崎 志津子氏、丸島 賢氏、弓 貞子氏と、再派遣 帰国者の 柿沼 豊氏、加藤 哲男氏、木内 良郎氏、須郷 隆雄氏、鈴木 岳氏、濱崎 丘氏が紹介されました。

会員名簿の共有と自己紹介の提案があり、事務局長が対応しました。

新任の JICA 千葉デスク 国際協力推進員 田村 美由紀氏の自己紹介がありました。

後藤副会長の閉会宣言で、二十三年通常総会が終了し講演会に移りました。

山本新会長挨拶 当会の役割と活動



当会は独立行政法人国際協力機構（JICA）が開発途上国へ派遣した、千葉県出身者のシニアボランティアOB・OGによる、ボランティアグループです。

自分達の住んでいる地域で、海外ボランティア経験と現役時代の豊富な蓄積を生かし、「社会還元」に努めてお

ります。

活動では、まず第一に JICA の国際理解教育活動を支援するための出前講座、公開講演会、各地の国際関連フェスティバルに現地活動パネルによる出席参加、帰国報告会などを実施しております。

第二に千葉県内の自治体などの国際交流・協力事業に対し心援活動を行っております。

また、会員間の親睦、会員の個人ボランティア活動の支援にも重点を置いております。

当会は JICA、千葉県の

支援と会員の総力結集で、発展を続けてきました。この路線を守っていきたくと考えております。

当会の活動は SV ニュース とウェブサイトで随時ご案内しております。公開講演会、フェスティバル出席、帰国報告会などの行事予告と実施案内がご覧になれます。

会員の海外ボランティア活動・異文化体験レポートで、通常の紀行文とは一味違ったドキュメンタリーをお楽しみください。

講演「変わり行く世界の開発援助～激震の日本の行方は」 資料

日英米 ODA 比較表

出典：2010年 OECD-DAC 報告書他

| | アメリカ | 日本 | イギリス |
|------------------------|---|---|--|
| 目的 | 「開発は、アメリカの国益を専守防衛するため不可欠なものだ。」 (2010年グローバル開発に関する大統領令) | 「国際社会の平和と発展に貢献しこれを通じてわが国の安全と繁栄に資すること」 (2003年改定政府開発援助大綱) | 「開発援助は、それが貧困削減に寄与すると国際開発大臣が納得した場合において、人や団体に対して供与することができる。」 (2002年国際開発法第一案) |
| 世論 | 妥当だと思う連邦予算に占める対外援助予算の割合=平均10% (実際は1%) (World Public Opinion.org) | -積極的に増やすべき 31.5% (1978年は44.1%) -ちょうどよい 43.1% -もっと減らすべき 19.2% (1978年は4.9%) (2010年内閣府外交に関する世論調査) | -途上国の貧困問題に関心がある 70% -貧困に関して同義的責任を感じる 71% -NGOが貧困削減に貢献している 61% (2001年英国統計局調査) |
| 実施体制 | -国務省、財務省、農務省、国防省など30省庁 -アメリカ国際開発庁、ミレニアム・チャレンジ公社 | -外務省(67%)、財務省(21%)など12省庁 -国際協力機構(無償資金協力80%、技術協力45%、借款100%) | 閣僚を長とする国際開発省に一元化 |
| 純支出(2010年) | 301.5億ドル 援助国中1位 (2001年比264%増) | 110.5億ドル 援助国中5位 (1995年比24%減) | 137.6億ドル 援助国中2位 (1998年比358%増) |
| 地域配分(2008-9年平均総支出) | サハラ以南アフリカ 28.3% 南・中央アジア 17.9% その他アジア・大洋州 4.2% 中東・北アフリカ 18.3% ラテン米・カリブ 8.2% 欧州 2.0% | サハラ以南アフリカ 10.2% 南・中央アジア 20.5% その他アジア・大洋州 36.8% 中東・北アフリカ 11.2% ラテン米・カリブ 5.4% 欧州 3.7% | サハラ以南アフリカ 32.4% 南・中央アジア 21.7% その他アジア・大洋州 5.9% 中東・北アフリカ 6.8% ラテン米・カリブ 1.7% 欧州 0.7% |
| 10大援助受取国(2008-9年平均総支出) | アフガニスタン、イラク、スーダン、エチオピア、パレスチナ、コロンビア、エジプト、ケニア、パキスタン、南アフリカ | インドネシア、インド、中国、ベトナム、イラク、フィリピン、バングラデシュ、トルコ、スリランカ、マレーシア | インド、イラク、アフガニスタン、エチオピア、バングラデシュ、スーダン、パキスタン、タンザニア、コンゴ民主共和国、ナイジェリア |



千葉県シニアボランティアの会と共に8年間

2003年7月「千葉県JICAシニアボランティアの会」が千葉県出身のJICAシニア海外ボランティアのOB会として設立された。

以来、8年間にわたる会員の総力とJICA、千葉県の支援の下で、存在感のあるOB・OG会に成長した。
品川 洋之助

私は2003年7月5日の設立総会以来、本年6月11日の通常総会で山本新会長にバトンタッチするまで、会の発起人と世話役を務め、それなりの達成感を得る幸運に恵まれた。

2003年には千葉県出身のJICAシニアボランティア経験者が100名を超え、会の誕生の機運が生じた。JICA国際協力推進員であった塩沢かおり氏の支援があり、6名の発起人が集まった。JICAシニアボランティアに参加したという共通の経験を持つOB・OGが集い、お互いの親睦を図る、あるいは開発途上国の実情や、そこの経験を多くの県民に知らせる、などの機会を作ることには意義がありそう、というのが会設立の趣旨であった。

会の運営基本方針としては、設立の初心を忘れず、無理をせず、継続することを旨とし、会員一同が仲良く楽しくやろう、と決めた。具体的には会員の親睦を図ることを基本とし、会員を講師とする「出前講座」、自治体主催の「国際交流フェスティバル」などに参加し、講演、パネル展示や資料配布などによってJICAのシニア海外ボランティアの活動を後押ししていくこととした。

発起人会は強力な活動により、規約、年間行事計画、JICA国際協力推進員との連携など、設立時の会員総数31名には十分すぎると思われる体制を整え、2003年7月5日の設立総会に提案した。現在にも規約、行事計画などの殆どが引継がれ、活動の基本となっている。

初代会長には、この会を創ろうと言いだした及川淳一さんが就任された。同氏は2004年10月に再びシニア海外ボランティアとしてドミニカ共和国に赴任することが決まり、ほぼ1年の任期で会長を辞された。2004年5月の総会で承認を受け、及川さんを継いで会長に就任した。

会は引続きJICA、千葉県の支持を得て、順調に発展することが出来た。会員の社会への還元活動の推進手段では、広報活動、出前講座、各地フェスティバル参加を重視した。

広報紙兼会報である「JICAシニアボランティア千葉」(以下「SVニュース」)創刊号が及川会長時代の2004年3月に発行され、当会の広報活動が軌道に乗った。「SVニュース」が年2回発行となったのは2006年9月発行の第5号からで、やっと『ニュース』と呼べる体裁が整った。2006年秋に会員からインターネットのホームページ開設の要望が強くなり、11月には堀端俊雄会員がウェブマスターを買って出られ、2007年に掲載を開始した。その後も人材に恵まれ、立派な自前のホームページが運営されている。

「出前講座」「国際理解・開発教育」の推進は2006年半ばにプロジェクトチーム的な活動を開始した。画期的な「提案書」を作成するなど基礎を固めた。千葉大学教育学部吉田雅巳教室との連携授業、小・中学校体験授業、各地公民館への出前講座が軌道に乗ってき

る。

県内各地の国際交流・協力フェスティバル参加活動は、2004年1月、「浦安市国際交流・協力フェスティバル 2004」でパネル展示と応募相談、国際理解クイズの実施を行ったのを皮切りに、「グローバルフェスタ Chiba」「ちば市国際ふれあいフェスティバル」「四街道市民文化祭」「千葉市ボランティアパーク」「千葉市民活動フェア きぼーる」「協力隊まつり」などにブースを出展した。役員、会員が一体となって実施出来ているのは、会の誇りである。

千葉県の国際交流・協力活動には今後も連携の接点を求めていきたい。

会長退任に際し、JICA地球ひろば 貝原所長より感謝状を頂いたが、これはひとえに会員、役員全員のご努力と、寛大な気持ちで会の活動を支援して頂いた結果と思っている。お陰で、私にとって有意義且つ爽り多き8年間となった。

(2011年7月14日 記)



品川さん、この度はご卒業おめでとうございます！

はじめてお会いしたのは私が国際協力推進員になりたての頃でしょうか。

あの時は、決まった業務もなく自分でいろんなことを決めて手探りでやっていた時期でした。そんな時に、及川さんと出会いそして品川さんとも出会い、梅谷さんや楠木さん…思い出すとすごく懐かしいです。あの時は、これから立ち上げよう！という時期で

みなさん本当にSV会発足に向けて熱い思いをもっていらして、ミーティングしていて、いつもランチしたり、真剣にだけど楽しくて毎回お会いするのが楽しみでした。

その中でも品川さんはいつも声が大きくて明るくて楽しくて意見もはっきりとおっしゃっていただいて本当に頼りがいのあるリーダーのお一人でひそかにファンでした。今は、あの頃とはがらりと違っているのでしょう。ですが、発足時の品川さんはじめ立ち上げた方々の熱い思いは今でも受け継がれているのでしょ

ね。品川さん本当にお疲れ様でした。これからも第3、第4の人生まだまだがんばってください！応援しています。

塩沢 かおり

(2002~2004 JICA千葉デスク国際協力推進員)

第十一回国報告会開催

千葉県JICAシニアボランティア帰国報告会が浦安市国際センターに於いて、盛大に開催されました。



七月三十日 午後一時より行われ、来場者は一般市民、浦安市・JICA関係者、および会員の合計が四十二名でした。
(文責 編集担当)

温故知新「水資源屋から見た『マヤ・インカの文明』」
小松 秀世氏 グアテマラ水資源開発 大網白里町



平成二十年十二月より二十二年十二月までグアテマラ市UNEP A R / I N F O M (地方振興局/地方水道実施部)に水資源開発と言うテーマで赴任した。

グアテマラ(人口千三百万人)は日本の三分の一の国土で、地形的には標高差等から三地区に区分されるが実に多彩な自然環境を有している。赴任業務の地下水開発関連活動は全土が対象であった。マヤ文明の遺跡は水理地質学の面からみると水資源確保をした所が発展したと考え



中でも熱帯雨林ジャングルはマヤ最大の神殿都市の遺跡で中米初の世界遺産と言われる。
景観に恵まれ、良い気候風土で観光客が途絶えない国としての条件は整っている。
治安は良いとは言えず、通勤は二年間送迎を受ける状況であった。

ホンジュラスのボランティア活動を振り返って
(算数指導力の向上を目指して)
柴崎 静江氏 ホンジュラス算数指導 船橋市



平成二十一年六月から二十三年六月の二年間に先生たちの算数指導力向上を目指した活動を行った。先生を三十八年間やった事は伊達ではない、JICAが作成した教科書を先生が使えない理由の追及から始め、小学校、中学校、大学、専修学校の先生を巻き込み、授業のやり方指導は勿

論、授業用の資料は沢山残してきた。



テレビに出演し十回の講習を行ない、大学の先生たちとチームを組み先生方の指導もしたが、生徒は面白くない授業を受けるわけがないのは実感である。「シズエ来て！教えて！」と言う声が聞こえる。

シニアボランティアの十年
(ライジー、プアタン、カンボジア)
鈴木 岳氏 カンボジア都市計画 千葉市



☆平成十三年にライジーのスパ市役所に赴任し、都市計画マスタープランに関わった。
特に二〇〇三年に開催予定であったSPG (South Pacific Games) の動線整理や公園の整備・市街地の美化運動に注力した。
Takashi Suzuki Gardenはクロスロードでも紹介され、よい記念となった。
☆プアタンでは分散した十一の Institute を統合する王立プアタン大学体制整備、施設の建設への協力をした。

プアタン人技術者はおらず、インド人を指導することになった。

☆カンボジアではSiem Reap市の総合都市計画マスタープランの見直しや、川岸の整備美化運動として歩道橋の設計を行った。



違法住民の移住プロジェクトにも参画したが、ベトナムの援助機関に先行され、ボランティアにもスピードの大切さを学んだ。

シリアの食品品質管理
加藤 哲男氏 シリア食料分析と排水処理 流山市



平成二十一年一月より二十三年一月までの二年間シリアのホムス市の職業訓練学校に食品分析と排水処理の指導で赴任した。生徒、先生に対する十分な技術移転は出来なかつた。寄与できたのは排水処理の目的を理解させ、ガスクロマトグラフ、液体クロマトグラフを稼働させ指導をしたことである。
民間のハム製造会社で分析室の整備や堆肥製造の指導、肥料製造会社の排水処理の指

導もしたが、いずれも今後自分達で実行出来るか問題が残ったので、自費での再訪を考えている。



治安の悪化情報が続いている。もし養成してきた人達に事故があると足掛かりが無くなり、残念な結果になりそうで心配である。

ベトナム北から南
田中 忠昭氏 ベトナム農産加工品販売促進 船橋市



平成二十一年六月にベトナムの科学技術環境センターに赴任した。品質管理と生産の指導体制が整わず、ハノイ農業大学に変更した。
大学では、大学院生の修士論文実験、学部生への微生物実験指導、食品微生物学の講義内容の作成を行う事が出来る。旅行なども出来る。共に満足だった。



国際理解（開発）教育

柏市立大津ヶ丘第二小学校に出前授業を行いました。

四回シリーズの出前授業を柏市企画部国際交流室（現地域づくり推進部協働推進課）が企画され、要請により当会が講師として参加しました。日程と対象学年・生徒数、



講師および演題は次の通りです。
☆六月二十九日（火）午後、体育館にて六年生七十四名を対象に、

中村時夫会員による「素敵なパラオの人々」と題する授業を行いました。柏市協働推進課の田中氏と桑原教頭が同席されました。生憎、気温三十五度という条件下でしたが、児童達は熱心に学習し「楽しかった」という感想が聞かれました。
☆七月五日（火）の午前に、羽田 亨会員による「パキスタン」の国と暮らし」と題する授業を三年生七十二名に行いました。
低学年の三年生が約五十分の授



業に集中力が続く心配されましたが、講師の話術と図書室という環境で、問題ありませんでした。
☆同日午後には白鳥貞夫会員による「幸福の国バヌアツを知ろう」と題して、四年生五十四名を対象に授業を行いました。「幸福度世界一」にランクされたことのあるバヌアツの生活には、大変興味を示していました。
☆最後の四回目の授業は九月七日（水）午後、黒田昭太郎会員により五年生八十六名を



対象に「マレーシア」民族共存の親日国」と題して行いました。男女マレー服の試着で賑やかに盛り上がりました。イスラム教についての質問もあり、関心の高いことが窺われました。
☆最後に柏市協働推進課担当の田中氏より「いろいろな国の文化や生活、国際協力の必要性について、子供達が考える契機となったのではないかと。今後もぜひ、継続していきたい。」という総括コメントを頂きました。



対象に「マレーシア」民族共存の親日国」と題して行いました。男女マレー服の試着で賑やかに盛り上がりました。イスラム教についての質問もあり、関心の高いことが窺われました。
☆最後に柏市協働推進課担当の田中氏より「いろいろな国の文化や生活、国際協力の必要性について、子供達が考える契機となったのではないかと。今後もぜひ、継続していきたい。」という総括コメントを頂きました。

市原市有秋公民館「雑学セミナー」第二回で出前講座を行いました。

五月二十七日（金）市原市有秋公民館にて、寺田 博義会員が「シニア海外ボランティアに挑戦してータイ・チェンマイでのボランティア生活ー」の演題で講話をおこなないました。



近隣に居住する成人二十三名が参加され、

間とユーモアの利いた話術で、受講者の笑い声が漏れる楽しい講演でした。

NPO法人「パートナーとうかつ」中高年の市民大学「まなび屋」第百三十回講座にて出前講座を行いました。

六月十四日（火）JR柏駅東口側の日本生命ビル二階にてパキスタンに於ける「イスラム国家の実情」と言う題目で羽田 亨会員が講座を行いました。イスラム文化についての関心が高いようで、スライドに



よるパキスタンの風物・街なかの様子を興味深く視聴されていました。
進出して

業の状況や、就学率の低い理由についてなどの質問がありました。参加者は約三十五名で女性が多く、年齢は概ね六十歳以上でした。
市民大学「まなび屋」には本年度中に再度の出前講座の予定があります。

会員動静

（三月十四日以降、八月十日現在 敬称略）
九十七名
入会者 六名
退会者 八名

再派遣帰国者
木内良郎（メキシコ）
鉄工・非鉄金属 茂原市
田中忠昭（ベトナム）
農産加工品販売促進 流山市

再派遣中の方々 派遣順
高木利公（タイ）
コンピューター技術 館山市
武藤達雄（ペルー）
コンピューター技術 柏市
大澤トシエ（シリア）
服飾デザイン 松戸市
渡辺章（ミクロネシア）
保健師 松戸市
寺島得司（エルサルバドル）
上下水道 八千代市
吉原久雄（トンガ）
農業生産技術 印西市
堀 甲子男（チュニジア）
柔道 千葉市
児玉東洋（ドミニカ）
工業廃水処理 千葉市
大久保邦衛（フィジー）
水産物流通改善 浦安市

新会員紹介

- 松崎 志津子（ガーナ） 千葉市
建築
佐藤 聡（モンゴル） 千葉市
資機材調達 我孫子市
弓 貞子（エクアドル） 浦安市
看護師
後藤 令子（ヨルダン） 千葉市
養護
柴崎 静江（ホンジュラス） 船橋市
算数指導
村田 淑子（パラグアイ） 船橋市
日本語教育
退会者
飯島 麻夫 菊池 良一
井原 欣二 藤田 正三
柏尾 英彦 樋口 徹生
佐山 清司 上野目 玲子

会員 寄稿

チュニジアの算数指導を通して

中山 明子 チュニジア
初等理科教育 佐倉市



地中海ボン岬のスナップ

千葉県内および在外教育機関（日本人学校）に於いて、教員として経験した事が、今回の要請に合致したと思う。「チュニジアの理科教育の充実に自分の経験を生かしたい」「日本の優れた初等理科教育のノウハウを、チュニジアの先生たちへの講習や教材作りを通して広める」、そんな一教師としての熱い想いで国立教育改革研究センターへ赴任した。

ヨ」と即答する、こんな事をして来たのではない。赴任の目的を果たす為には遠慮せず即座に行動を起こした。

まず教育技術の伝達をする為の教育現場の人達を探す事から始めた。配属先の上司やCP（教育訓練大臣顧問）を説得し続けて、やっと「教育現場の人達」と出会えた。

首都チュニスおよび隣接する三県から五つの教育行政地区での活動がスタートした。一年目は学校訪問や授業参観を通して、チュニジアの教育現場を知ることが中心だった。



小学生の生き生きした表情

日本と比べたら、施設も備品も貧相なチュニジアの学校なのに、そこで育つ子どもたちの生き生きとした表情。なにかしらのセレモニーに呼ばれた時は、ネット上から探した歌である「君が代」を歌ってくれる歓迎ぶり。小学校に入学すると正則アラビア

語を国語として習い、三年生からフランス語、さらに六年生から英語も学ぶ、その語学教育のレベルの高さ。ある校長先生に「児童や保護者が学校に対していちばんに望むのは何ですか？」と質問したら、「学力だ」と即答。日本だったらどうであろう、学校教育にあまりにいろいろなののが複雑に入り込んでいて、「一番は学力だ」と当たり前のことを躊躇せずに答えられるかどうか。そんなことを思った。下校途中の六年男子に、「勉強が好き？」と尋ねたら、「好きだよ」と、こちららも即答。チュニジア人の単純でおおらかなところに圧倒される良い面が多くあった。

反面、チュニジアの教育現場を見て、「基本概念の軽視」「児童が考える場を授業に設定しない」等、算数教育・指導法における問題点もわかり、大好きなチュニジアに対して、私に出来ることは、それらの問題点を教育委員や教員に理解して貰うことと、さらにそれを改善しようと考えてくれる様に上から目線ではない活動を心掛けた。そこで、教員対象の講習会をなるべく多く開催しようと決心し、二年の活動期間中に四十八回の講習を実施した。おぼつかないフランス語で一人舞台の講習会はハラハラドキドキのハプニングの連続

であった。講習の途中で「メイコは二十(vingt)の発音が出来ていない」と指摘され、皆さんの前でvingtの発音をさせられた。勿論こちらも語学の不出来さ、発音の悪さを痛感しているわけで、真剣にvingtを何回も発音練習をさせられた後、「よし！合格！」と数人の受講者（教員）から言われ嬉しい気持ちにもなった。「私は日本では貴方方と同じ教員です。私達は同僚(camarade)です。子供達のために今日も学びましょう」何時もそんな事を言っていたからスタートする講習会になった。



先生への講習風景

活動の纏めとして、講習会で評判の良かった児童用教材をCD-Rにして、全国の教育委員会へ無料配布することになった。フランス語で作った物を、いちばん熱心に私の活動を支えてくれた教育委員M.Kejiがアラビア語に変えてくれた。印刷するとA四用紙三百枚超なので、翻訳もたい

へんな作業である。

M.Kejiに、「メイコ、お前がボランティアだから、苦労して作業しているんだぞ。これが仕事だったら、オレはやらないからな」と言われた。「ボランティア」という立場をこんなによく理解してくれてチュニジア人がいる、教師や教育委員の温かい思いやりを沢山もらったこと、チュニジアの子供達の真っ直ぐな眼差しと秘めているエネルギー。多くの出会いや出来事に感動させられたり、驚かされたり、時には怒られたり二年間。

なによりも「ボランティア活動を通して、学ぶ機会と考える機会を私は与えてもらった」と感謝している。

チンギスハーンと朝青龍の国
2年間のモンゴル見聞録

佐藤 聡 モンゴル
資機材調達 我孫子市



平成十八年の春、定年少し前に応募しようとして募集の気持ちで募集案内を見て

いました。その中にこれまでの経験を活かすことができる石炭火力発電所での案件募集があったので、会社を早期退職して参加しました。

モンゴルは、朝青龍とチンギスハーン以外ほとんど知られていない国です。

首都のウランバートル一極集中で、そこでは日本とほとんど変わらない生活ができるが同時に、少し離れると手つかずの自然が豊かで、満点の星空などの自然の素晴らしさを満喫できた二年間でした。

配属先の第四火力発電所は、モンゴル全体の七〇割の電力とウランバートル地域の暖房・給湯用温水の六十五割を供給している熱併給発電所です。

モンゴルの冬の期間は約半年、中でも十二月と一月は、日中でもマイナス二十度以下の厳しい生活が続きます。



会議中の著者（中央）

一九九一年に開始された日本からの援助は総額百三十四億円にのぼり、専門家・SVは二十名になります。

発電所職員は約千四百名で、当初その中の日本人は私一人でした。仕事の内容は、日本から入った機材の修理の指導と交換部品の手配が主な業務でした。モンゴルからいきなり日本のメーカーに問い合わせをしても、信用してもらえず苦労

しました。しかし、インターネットやメールを使うと、思ったよりスムーズに仕事を処理することができました。

ある時、主要機器の部品が壊れ、そのメーカーと交渉がうまくゆかず困惑していたところ、その機材を作っている部品メーカーが中国にあることがわかり、そこから安価で購入できたのが大きな成果だったと思っています。

また派遣前訓練で、しっかりとモンゴル語の基礎をたたき込まれた事に立ちました。食堂のメニューを読み、オーダーしていると驚かれ、それをきっかけに多くのエンジニアと親しくなることができました。仕事柄幅広いセクションの人と付き合う必要があったため、通訳がいなくてきなど片言でもモンゴル語を話すように努力しました。モンゴル語を話せるということが多めの場面で役立ち、仕事以外の発電所行事にも積極的に参加し、夏のナーダムや年末のシヌジリンバヤル（忘



Naadam（武道競技大会）

年会）では、アルヒ（モンゴルウオツカ）攻めにあつた事など、楽しい思い出です。

人生の大きな転機となった二年間であり、モンゴルの発展に欠かせない電力分野の整備に貢献出来たと思います。

今でも交流は続けており今回得た知己を生かして、これからも電力関連分野のお手伝いしたいと考えています。

マイクロネシア・「音とサン」の南の島

濱崎 丘 ミクロネシア 環境技術 柏市



環境問題は現在、最も注視されている問題の一つです。汎用性のある課題がありながら、地域固有の課題もあり、現場の人達と共に悩み、汗をかき、取組んでいく。小さいけれど課題解決の一步を共有できたときの喜びは、私にとつて何ものにもかえ難いものです。環境問題を通じたボランティア活動に参加することが私の応募の動機でした。

今までのボランティア活動を通じて強く感じたことは、目に見える成果とともに「目に見えない」成果の重要性です。離任後に次なる課題に主

体的に取組める人材が育つたかどうかが鍵となると思われます。ボランティア活動の根幹には、人と人の繋がり、そこから生れる熱意や知識のネットワークが大きな意味を持ちます。人対人のコミュニケーション、協働作業にこそ、ボランティア活動の意義と目的があると考えます

は非常に喜ばしいことでありましたが、州全体では分別法が未だ浸透しておらず今後も地道で継続的な啓蒙活動が必要であると思われれます。SV活動を通じてマイクロネシアの人々の生活に根差したスローテンポの価値観と、日本人である私の時間感覚とのギャップでいろいろ難しいことに直面しました。

現地での活動内容と感想 私はマイクロネシア連邦国コスラエ州の運輸インフラ局において、「廃棄物対策」の支援をおこなってききました。



現地での活動シーン

具体的には、不法投棄所の廃止を行い、ごみ収集車によるごみ回収と処分場への集中化を実現しました。住民に対するごみ分別の協力や依頼に係る三R等の啓発活動については、送受信無料のラジオ放送を用いる等、この州のやり方に委ねた持続可能な方法で実施しました。彼ら自身がごみ処理問題や環境改善に意識を持ち取り組んでいったこと

仕事を進める上で、日本とは異なるマイクロネシアの「ゆるやかな時間」の中で、いかに成果を上げるのか。休日には一切「動」が否定される中で、ごみ処理という日常に欠かせないサイクルをいかに構築すればいいのか、彼らにとつてそれがどのような意味をもつのか、などなど私自身、ボランティアとしての在り方を今一度問い直す機会になりました。しかしそのような戸惑いの連続の中でも、山や海に囲まれた彼らの生活に沿う形で環境改善の提案が達成されて行ったことは、SV活動の喜びとも言え、今後のボランティア活動の大きな糧となる経験となりました。

パプアニューギニアでの 医薬品流通事情と生活体験

坂出直哉 パプアニューギニア
医薬品在庫管理 千葉市



世界が狭くなり他国との交流が増える中、異文化への理解とボランティア精神

神は今後益々重要になると思いますが。そんな中で会社を早期退職する機会に恵まれ、何かに貢献したいという気持ちでJICAのシニアボランティアに応募しました。

赴任国はパプアニューギニア。赴任先は日本の厚生労働省に当たる保健省(Department of National Health)で、医薬品・医療用品の流通と在庫管理のアドバイザーとして勤務しました。勤務地は首都であるポートモレスビーでした。

成田から週二便(水・土)直行便があり、六時間半のフライトで到着する千葉市民の僕にとっては本当に便利な所でした。ほとんどの食材が輸入品と言うこともあり物価は非常に高いです。なんと白菜一個が大きい物なら千円以上します。しかし価格を気にしなければ必要な食材のほとんどがスーパーマーケットで手に入ります。住宅事情は非常に悪く設備や治安が良いア

パートは毎年三十割程度上がります。二年目は同じアパートの家賃支払いがでず、知人の紹介で国連職員(マレーシア人)とハウスシェアをしました。外国人と共同生活は結構楽しい思い出になりました。

ボランティア活動に関しては状況が余りに日本と違うことから、日本での知識や経験はほとんど役に立ちませんでした。流通に関してはまず道路がなく、窃盗が日常化して品物が輸送中に無くなってしまう。またこの国の公務員は余り働きません。新しい次官が赴任した時の挨拶が、"First of all, Come to work!!"。だったのは状況を良く表していると思います。それでも一年も過ぎるとそんな怠け者達とも親交ができ、少しずつアドバイザーに耳を傾けてくれるようになります。



地方(ケビエン)の保健局で

しかしながら、注文した後や出荷した後、誰もフォロー

をしないので、必要なものは欠品し、不必要なものは有効期限切れで廃棄処分となることが多くありました。廃棄品の削減を部の目標に掲げて努力しましたが大きな成果は得られませんでした。毎日の仕事の結果をシステムに入力しないのが最大の原因です。

日常生活はと言うと、健康維持と言う課題もあり毎日の食事の用意と週末のスポーツ(テニス・ゴルフ・スキューバ)で過ぎていきます。僕はスキューバの免許があつたことから、ダイビングを楽しむことが多かったです。海は本当に綺麗で、オセアニアの綺麗なさんご礁を満喫し、また健康管理を目的に入会したスポーツクラブでもたくさんの友達ができ、テニスクラブ主催のトーナメントにも参加し楽しく二年間を過ごす事が出来ました。

今は癌の撲滅をターゲットにしたバイオベンチャーで働いています。退職後はまたどこかの国でボランティア活動が出来ればと考えています。

赤道の国エクアドル

須郷隆雄 エクアドル
経済・市場調査 流山市

社会構造

エクアドルはインディヘナが二十五割、メステイーン(インディヘナと白人の混



血)が五十割でインディヘナ系が合わせて八十割を占め、ヨーロッパ系白人は十割、アジア系とアフリカ系が計十割です。

人口は千三百万人、国土は日本の四分の三、宗教はローマ・カトリックです。日本でも馴染みのバナナやコーヒー、切花、エビが代表的輸出品ですが、原油や天然ガスはエクアドル収入の五十割以上を占めています。エクアドルは国名が示すとおり赤道直下に位置し、アンデス山脈が南北に縦断し、西は太平洋、東にアマゾンが広がり、世界自然遺産第一号のガラパゴス諸島がある多様な生物に恵まれた風光明媚な国です。

派遣先と仕事

エクアドルの最高峰、六三〇〇mのチンボラソ山を始め、五〇〇〇m級の山々に囲まれた標高二七五〇m、人口十三万人の町が二年間お世話になったリオバンバです。

そこで、「チンボラソ県農村部貧困削減プログラム」に基づくインディヘナ貧困対策が仕事です。配属先はチンボラソ県審議会でしたが、活動先はチンボラソ県内に七会員会社、二十八乳業工場を傘下を持つチンボラソ乳製品組合で、市場調査やマーケティング



チーズの展示販売コーナー

感じたままに

南米は仕事より家庭やアミーゴを大事にする陽気で開放的な、しかも自分第一の民族との印象を持っていましたが、エクアドルは大分違いました。メステイーンを含めると八割に及ぶインディヘナ系の血が、ラテンとは一味違った文化を構築したように思います。比較的まじめで、控えめで、仕事熱心でもありません。



展示販売で我がチームが表彰されて大喜び

貧富の格差と貧困層の多いこと、それが農村部、インディヘナに集中しています。インディヘナが政治的な

力を持つていることが、今後の改革に大きな力になりそうです。

米と海産物を良く食べるし、野菜や果物も豊富なことから、食生活には困りませんが、歯を痛めるほどの硬さには閉口しました。

比較的治安も良いし、似たような顔をしているので結構居心地も良い。ただ、日本のように管理された社会とは違い、仕事の仕方にルーズさが目立ち、それが良いとも悪いとも言えます。コレア大統領の下で、エクアドルは市民主体の国家に大きく変わろうとしています。

現地会員便り

義援金とサトイモ

・トンガの人々の震災被災地への思いやり・
吉原 久雄 (トンガ)

在トンガ日本大使館での記帳

ツボウ・ジョージ五世国王閣下が在トンガ日本大使館を訪問され、高瀬大使にお悔みとお見舞いを述べられました。そして、震災被害者への弔意を表すために記帳されました。

その他主官庁、JICA関係の省庁・学校から代表者が来館して記帳しました。

トンガ赤十字社前で「義援金の募金」

二月十九日、トンガ赤十字社主催で「日本の被災地への義援金募金集め」が同社前で行われました。



義援金を呼び掛けるボランティア

参加者は同社関係者およびトンガ人ボランティアなど約四十名、在トンガ日本大使館関係者、協力隊員・シニア海外ボランティアと家族など約四十人でした。



日本への義援金募集の看板

横断幕を道路横に掛け、募金箱を持って大きな道路の両側に立ち、通行する自動車に

募金をお願いし、また野菜マーケット前でも募金活動を行いました。

トンガラジオ放送局がテント内で実況放送、トンガ政府高官、日本大使、日本留学生経験者などが出演してメッセージを送り、インタビュに答えていました。

また国際電話で在日トンガ人が生の声で甚大な災害と日本人の様子が伝えられました。

トンガ赤十字社は首都ヌクアロファで一番組通りの多い道路で、土曜日は市内のマーケットに行く時必ず通る道路のため、放送を聞いた車が次々と停車し募金箱に小銭やお札を入れてくれました。

大手の企業などは小切手を持参して会計係に直接渡してくれました。後日、金額が日本円で二百二十万円以上集まったと聞きました。

この募金は既に日本赤十字社に送金済みです。この金額は人口の少ない豊かでないトンガでは大変な大金です。

私は初めてこのような募金活動に参加し、トンガ市民の琴線に触れ、多くのことを学びました。

トンガ赤十字社には過去数名のJICA協力隊員が小児看護教育などで活動し、現在も一名の協力隊員が活動中です。

トンガ産サトイモを被災地に贈る計画

日本品種サトイモを十年間栽培し輸出しているポウシマさん(私が経営と栽培を指導中)が、四月二十五日にサトイモ四トを日本に輸出しました。

これに併せて震災被災地に寄贈するサトイモ六トを船積みしました。日本訪問の経験があるポウシマさんは、今回の大災害に心を痛めて、日本人の大好きなサトイモを被災者に贈る事を思い付きました。



左から筆者、農業大臣 ロード・バエア氏、ポウシマ氏

トンガ側の協力者は、サトイモと輸出手続きがポウシマさんの会社、その他木箱(五百キログラム入り)、袋に貼るラベル印刷は市内の事務用品店、そして船会社です。

日本側は、輸入手続きを大手スーパリーの輸入商社、そして被災地までの輸送は別専門商社が引き受けられます。

網袋に貼るラベルのデザインを私が頼まれ、パワーポイントを使ってデザインを考えサトイモ収穫の写真を入れ日本語で書きました。



筆者がデザインしたラベル

わずか六トのサトイモですが、トンガ人の愛情がこもった計画です。そして、私ができるアシストするのも嬉しい事です。

そして四月二十一日、農業大臣 Lord Yaea、政務官 Dr. Vaitala Matoto、在大使館川田参事官たちが袋詰め作業とコンテナ積み込みを視察されました。



生育中の芋畑、この畑は約2ha

フィジーでの近況
大久保 邦衛（フィジー）

東日本大震災直後の三月二十九日ラウトカ市の農林省水産局西部地区事務所へ赴任し水産を担当しています。

この国は英国植民地時代から砂糖キビ栽培が行われていますが、今では砂糖が主要生産品の一つになりました。ラウトカ市はその生産地帯の中心にあります。



Lakirakiでの水産会議：スクリーン右こちら向きがカウンターパートのジョージ・アデン氏

配属先には日本での研修経験者が多く親日的で明るく陽気です。ただ困る事もありますが、一つは事務所に蚊が多く Dengue 熱感染の心配がある事です。体に防虫剤の散布は欠かせません。また会議の時など昼食が出ますが決まって煮魚です、輪になってお皿の魚を素手で食べます。指先で骨をよけたり身を摘み口に運ぶのに少し勇気がいり、チフスの予防接種も欠かせません。



左よりエピローニ氏（助手）、メレ氏（会計担当）、筆者

当地の自動車は日本の中古車が多く、島国で左側通行とすれば当然の選択かもしれませんが、交差点の信号待ちの時など「左に曲ります、ご注意ください」との日本語音声に一瞬混乱する事もあります。

前任地チュニジアでは初めての仏語に苦戦しましたが、当地の公用語は英語で少し余裕がもてます。

事務所でSVニュース第四号を紹介したところ、おなじ時に千葉県出身SVとしてフィジーに赴任された中山康子SVに興味をもって頂きました。

SVニュースへの寄稿を頂きましたので、ここに、ご紹介いたします。

フィジー国のリハビリテーション理学療法士事情

初めまして、中山康子です。現在、フィジー国立大学医学部理学療法学科での臨床

実習担当講師として活動しています。JICAは今までフィジーにある基幹病院等でJOCVの理学療法士の派遣を十年以上行なってきました。今回は養成校への派遣となり、フィジー派遣の理学療法士として初のSVという事でプレッシャーを感じています。



フィジー国立大学医学部

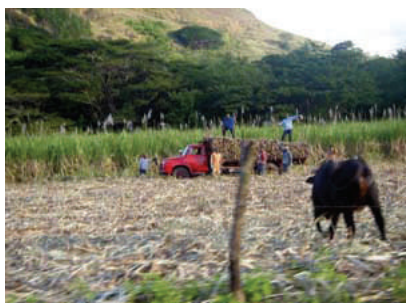
私の活動は学生の臨床実習と一緒に外向き、学生が患者に対して行う治療や病院の理学療法士とうまくやっていくかを評価、指導することです。学生はやる気があり、とても素直です。現場で働く理学療法士は残念ながら学生とは全く逆でモチベーションやプロ意識が低いのです。これが、十年以上もJOCVを悩ませてきたフィジーの理学療法士の現実のようです。よく観察してみると、学生が授業で習ってきたであろう

簡単な医学的検査を理解していないまま実習に臨んでいることがわかりました。どうやって習ったかを聞くと、実技をほとんど教わっていないのです。カウンターパートとの話から、この原因が実技を指導できる講師がいないうちに等しいことだということがわかりました。現場の理学療法士を観察していても、検査器具を使用している人は僅かで評価を行っている人は僅かでした。私は、学生のうちに基礎を構築できていないのがフィジーの理学療法士のレベルの低さだと考えるようになりました。

日本の理学療法士の世界では学校で習った机上の知識が、患者の治療に生かされるまでは三から四年以上かかると言われていきます。高い技術を持った理学療法士となるには、学校でいかに基礎を叩き込み、そして、その後の三年でしっかりと学ぶ事が必ずとなります。しかし、ここフィジーでは学校の指導も不十分、病院に入職しても指導者の技術も不十分のようです。私は、自分の学生にはこの基礎を学んで卒業してもらいたいと思っています。しかし、私が一番心配しているのが、私の後に続くSVの確保です。私が現場に送り出すことができる学生は二つの学年

だけで、その後を継ぐSVが果たして見つかるかどうか。私はいわば働き盛りに職場を辞め、ボランティアに参加した特異な人間です。現役を引退された先生方の中に「我こそは！」と名乗り出てくださる方が現れてくれればいいのですが、これだけは保証がありません。JICA以外でも講師はいますが、せっかくなので教育、養成のほうにJICAが入れたのですから、日本の高い技術をフィジーの次の指導者の育成につぎ込む数少ないチャンスは尊重したいと思うこの頃です。この場をお借りして、後任者にお心当たりのある方はお声かけのほどよろしく願っています。

今頃は日本のプロ野球もオールスターを挟んで後半戦に突入でしょうか？千葉マリスタジアム(QVC)が懐かしいです。あと一年と九カ月、ここフィジーで何とか頑張ります。



サトウキビの収穫

新SV千葉県庁表敬訪問

六月十三日(月)午後、JICA大金 正知 国内事業部次長の引率で、青年海外協力隊および日系社会シニア・ボランティア平成二十三年度第一次隊の合計二十名(JOCV十八名、SV二名)の方々が千葉県庁を表敬訪問し、坂本森男副知事の激励を受けられました。当会からは酒井幹事が同席しました。



JOCVとSVに囲まれる坂本副知事



SVの鈴木不二夫氏と宮本幸子氏

JICA平成二十三年度秋募集説明会のお知らせ

JICAシニア海外ボランティアおよび青年海外協力隊の秋募集説明会が左記の通り開催されます。会場ではパネリストによる体験談発表や、よろず相談があります。

■ 十月三日(月曜日) 柏会場(アミューゼ柏)

- ・シニア海外ボランティア 十五時三十分〜十七時三十分
- ・青年海外協力隊 十九時〜二十一時

■ 十月十八日(火曜日) 船橋会場(きららホール)

- ・船橋市民文化創造館 (船橋駅徒歩三分)
- ・シニア海外ボランティア 十五時三十分〜十七時三十分
- ・青年海外協力隊 十九時〜二十一時

■ 十月二十三日(日曜日) 幕張会場(幕張メッセ国際会議場)

- ・青年海外協力隊 十四時〜十六時

十月二十三日幕張会場は「青年海外協力隊」のみです。各説明会への参加は予約は必要ありませんので、会場に直接お越しください。多くの皆様のお越しをお待ちしております。

CCB便り



皆さま、こんにちは。四月からJICA千葉デスクの担当になりました、田村美由紀と申します。

今年の一月まで青年海外協力隊としてスリランカで活動していました。スリランカはあまり日本人には知られていませんが、戦後一九五一年に、サンフランシスコ講話会議で日本に対する損害賠償請求権を放棄し、世界で最も早く正式に日本と外交関係を結んだ親日国です。

私は二年間アヌラダプラというスリランカの古都の近くで、ホームステイをしながら活動していました。ホームステイでしたので、食事は毎日三食カレーです。カレーと言ってもインドカレーとは違って、ココナッツと唐辛子をたくさん入れます。そしてスリランカ人は何でもカレーにしてしまいます。私のお気に入りには、マンゴーのカレーです！



JICA千葉デスクでは、千葉県出身の青年海外協力隊の活動写真、震災を受けてJICAに百以



も残すことができ、充実した二年間でした。スリランカではたくさん素敵な出会いがあり、人との繋がりの大切さに改めて気付きました。

【国際協力・震災復興支援パネル展が開催されました】 六月二十八日から七月四日まで、さとう千葉店地階がうギャラリーで、国際協力・震災復興支援パネル展が開催されました。このパネル展は、(財)ちば国際コンベンションビュロー、千葉県ユニセフ協会、JICA地球ひろばの共催で行われました。

上の国々から届いた被災地への応援メッセージの一部、そして青年海外協力隊有志によって立ち上げられた「世界から元気を届けるメッセージプロジェクト」の写真を展示しました。

編集後記

東日本大震災後は、震災対応で政治等が混乱し、日本が何処へ行ってしまおうのかと気をもみましたが、早いもので、半年が経過しました。諸行無常と言いますが、月日が夢の様に過ぎてゆきま

す、暑い夏も盛りを過ぎ秋を迎えようとしています。今年の良いトップニュースはワールドカップ女子サッカーに於いてドイツ、アメリカに勝利して優勝した事でしょう。日本中が、元気を貰いました。夢を実現し逆境を乗り越えましょう。(酒井國彦)

ご意見、ちば出前講座のお問い合わせは下記にお願いします。千葉県JICAシニアボランティアの会 (The Association of JICA Senior Volunteers in Chiba) 043-255-3810 (山本) Shigeho_yamamoto@yahoo.co.jp 千葉デスク国際協力推進員 043-297-0245 (田村) jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp